

大阪 あそ歩

OSAKA
ASOBO

蘇る古代大阪・瓜破台地ものがたり ～旧石器から縄文、弥生、古墳時代の大阪を知る～

大部分が遺跡に含まれる瓜破は、旧石器時代から現代まで、人々が営んできた歴史がいっぱい詰まったまちです。遺跡、古墳、廃寺だけでなく、古い町並みにも風情があります。



◎瓜破遺跡
河内台地の先端である瓜破台地は今から約2万5千年の最終氷期寒冷期以降に開析谷(かいせきこく)という谷(西谷・東谷・馬池谷など)ができ、起伏に富んだ地形をしていました。瓜破遺跡は瓜破台地上の東西1.7km、南北1.6kmに及ぶ広範な遺跡で、旧石器時代から江戸時代に至るまでの複合遺跡です。大和川河川敷では中国・新(西暦9～23)の貨幣である貨泉が見つかり、別の場所からは数十棟からなる掘立柱建物群などが発見されています。また、瓜破霊園工事の際にも弥生時代の遺物が出土しています。また瓜破会館内では瓜破遺跡関連の展示があります。

◎道昭
道昭(629～700)は河内国に生まれ、白雉4年(653)に第2回遣唐使として入唐した僧であり、玄奘三蔵(三蔵法師)に学んで法相宗を唐から持ち帰り、日本に広めました。道昭は法興寺(後の元興寺)に禅院を建て、弟子に教え、道昭は行基の師としても有名です。また、亡くなった際は、日本で初めて火葬にされたと伝えられています。道昭の父は、船史恵尺(ふねのふひと えさか)とされ、645年、乙巳の変(大化の改新)で蘇我蝦夷が甘樫丘の邸宅に火をかけて自殺した際、恵尺は火の中から歴史書「国記」を取り出し、中大兄皇子に献上したと伝えられています。船氏は欽名朝に渡来した王辰爾(おうしんに)を祖とする一族ですが、船氏一族が政権中枢と近い位置にいたことを示すエピソードです。

① 磯齒津路(しはつみち)
住吉津から大和を結ぶ、古代の幹線道路で、長居公園通が磯齒津路に比定されています。

② 瓜破天神社
大化年間(645～650)に瓜破地域に住んでいた道昭が三密の教法を観念していたところ、天神像が現れ、道昭はその像を安置し、瓜を割って供えました。これが瓜破地名伝承の一つで、他に、空海(弘法大師)が高野山を往復する際に村人が瓜を割って勤めたので、瓜破という地名が生まれたという説もあり、また、敬正寺にも別の伝承が残っています。朝廷に上申した道昭は方八丁の土地を賜り、この天神像を氏神として祀り、西の宮または方八丁の宮と称したことが、瓜破天神社の起源とされています。

③ 瓜破東7丁目の道標
中高野街道は平野から喜連、瓜破を経て河内長野で西高野街道と合流した後、高野山へ向かう参詣道ですが、宝永元年(1704)の大和川付け替え後、中高野街道は大和川によって分断され、瓜破渡しができるようになりました。大和川渡河地点に置かれたのが、この道標です。付け替え工事により村は南北に分断され、多くの田地を川の敷地に奪われるため、東瓜破・西瓜破両村は大和川付け替えに反対しました。

④ 敬正寺
大化年間(645～650)に道昭が創建した永楽寺は成本から瓜破霊園までを含む寺域を持ち、その永楽寺の塔頭のうち、唯一残ったものが敬正寺であると伝えられています。敬正寺には永楽寺の本尊五智如来のうち、二体の石仏(大日如来、阿彌陀如来)が安置されていますが、これら石仏は江戸末期か明治初期に、近くの下池の水を抜いた際に樋門の下から現れた五体のうちの二体で、残る三体はどうしても引き上げられず、今では埋め立てられた下池の土中にあると言われています。敬正寺に伝わる瓜破地名伝承は、道昭が旅から疲れて帰った際、村人が採りたての瓜を割って差し上げたところ、元気を回復し、村人のために永楽寺を建立したというものです。

⑤ 小松神社
紀伊国に湯浅城を築いたことで知られる湯浅宗重の子・宗光が瓜破の地に住んでいました。宗光は過去に平重盛(平清盛の嫡男で、小松殿と称された)に危うい命を助けられたことがあり、重盛が熊野で入水してこの世を去ったと知らされた宗光は、社殿を建てて、その霊を祀り、小松大明神と名付けたとされます。しかし、入水したとされるのは平重盛の子・平維盛であり、小松大明神が重盛、維盛のどちらを指すのか明確ではありません。小松神社はかつて大和川堤防沿いに広い社域を持ち、東の宮と称されていたが、鉄道の敷地となったために瓜破天神社に合祀されることとなりました。現在の社殿は地元の有志により昭和22年(1947)に再建されたものです。

⑩ 地名「成本(なしもと)」
瓜破霊園北側では、昭和51年(1976)に飛雲文軒平瓦を含む溝が発見されたことから、8世紀頃の寺院があったとされます。こちらも寺院建築跡が確認されたわけではありませんが、字名をとって成本廃寺と呼ばれています。花塚山古墳の北に卍マークのあるあたりです。成本には牛頭天王社があり、北の宮と呼ばれていたそうです。成本天神社は、成本の村社でしたが、明治40年(1907)に瓜破天神社に合祀されていたのを、昭和61年(1986)に成本町の氏が再建したものです。

⑨ 宇利和利城
楠木正成の三男である楠木正儀が居城した宇利和利城(瓜破城)があったとされ、室町時代の記録である「花宮三代記」建徳2年(1371)の記事に「河州宇利和利城」とお城のことが出てきます。このあたりは、城山と呼ばれていました。

⑧ 花塚山古墳
この地域の氏族によって5世紀頃に造られたとされる、直径25m、高さ2.5mの円墳で、大阪市内に現存する数少ない古墳の一つです。

⑦ 大阪市設瓜破霊園
市域拡張により大阪市の人口が増大した結果、大阪市は墓地不足となり、昭和3年(1928)の第二次都市計画事業として、中河内郡・瓜破村(瓜破地域は1955年に大阪市内に編入されました)に60,200坪、豊能郡・野田村(現豊中市)に52,400坪の墓地新設が計画され、瓜破霊園は昭和15年(1940)5月に竣工しました。霊園内の卍マークについて、寺院建築跡が確認されているわけでもありませんが、奈良時代の瓦や磚仏が出土したことから何らかの寺院があった場所とされ、地名から瓜破廃寺と呼ばれています。

⑥ 区民わた畑
昭和61年(1986)に平野区の花として選ばれたのが「わたの花」です。区民わた畑では、わたの栽培や収穫を行い、わたの花の保存及び普及活動を行っています。